



華麗で雅な飾笥をつくる 手吹きガラスの巨匠、文化勲章受章

ガラス工芸家 藤田喬平さん

かざりばこ

2002年11月、市川市名誉市民であり、市川市北方在住のガラス工芸家・藤田喬平さんが文化勲章の栄誉に輝きました。ガラス工芸の分野では初めての受章となります。

後に世界で「フジタのハコ」とまでいわしめた飾笥（かざりばこ）の「菖蒲」を初めて発表したのは1973年。イタリアの伝統技術であるカンナ技法と日本の琳派的様式を融合させた美の完成品ともいべき花器やオブジェの技術は、世界中から絶賛されています。

「液状を固体化していきますから、固まって欲しいときに固まらない。逆に言いますと偶然性という面白さもあります」と藤田さんは、ガラス工芸の魅力を語ります。ガラスという素材を自在に操り、独特の美意識をガラスの中に込めた華麗で雅な技術は、フジタ・マジックとも呼ばれて、国際的な評価を得ています。



左／「Bacchus (バッカス)」
2002年
下／飾笥「飛鳥」
2002年



藤田喬平さん
ふじたきょうへい
1921(大正10)年東京生まれ。1944年東京美術学校(現・東京芸術大学)工芸科彫金部卒業。1947年頃から創作活動を始めて、1964年流動ガラス「虹彩」を発表。イタリア・ベネチアのムラノ島で伝統のカンナ技法を学び、独自の美の感性を融合させた作品は現代の琳派ともいわれている。



2002年11月3日文化勲章を受章し、記念撮影。



地域の人が集い、活動する拠点誕生！ 市川市の情報を世界に向けて発信も夢じゃない！

いちかわ情報プラザ

市川市の電子行政窓口（電子市役所）が2002年5月10日、JR本八幡駅南口正面の新しいビル「いちかわ情報プラザ」2階にオープンしました。ITを活用して行政サービスを提供するモデル窓口として開設されたものです。



現在のサービス内容は、証明書交付、テレビ電話相談、電子申請、電子行政情報案内などに限られていますが、ゆくゆくは暮らしに密接した各種情報の入手や、県および国が予定するサービスの利用などへと業務を拡大していこうと考えています。

「いちかわ情報プラザ」には、電子市役所以外にも市の機関や民間企業、インターネットカフェ、NPO法人などが多数入居しており、それぞれが新ビジネスの開拓やコミュニティビジネス推進の拠点



電子市役所では、テレビ電話機能のついたパソコンを利用して、各種行政サービスが受けられる。

として活躍中。

将来は「いちかわ情報プラザ」を中心に、大学・企業・行政・市内の各家庭で、膨大な情報資源の共有化と情報交換が行えるようにしていく予定です。



発見、発見、発見 回遊展で街の魅力を再確認

第5回街回遊展「八幡街回遊展」

「八幡街回遊展」が2002年10月2日～6日に開催されました。八幡は地名の由来ともなった「葛飾八幡宮」を中心に発展



随神門ライトアップセレモニー

してきた街です。黒松に囲まれた閑静なお屋敷街としての風情も残り、永井荷風、水木洋子、岡晴夫などが暮らしていました。

八幡の街が映る水木洋子脚本の映画「純愛物語」の上映をはじめ、文化人にちなんだイベント、市川市役所の市議会議場を開放して、議場ジョイントコンサートが開かれるなど、街を「知る、見る、聞く、参加する」企画が盛りだくさんで、とても1日では回りきれないほど。



市川案内人の会が八幡の街をガイド。



やわたまつりの前夜祭「宵祭り」は葛飾八幡宮で。

さらに、8月に葛飾八幡宮の随神門が改修され、3年に1度、神輿が街中を練り歩く「やわたまつり」が重なって回遊展を盛り上げました。街を散策し、今まで知らなかった街の魅力を引き出す回遊展。次回も楽しみです。